



化石から 恐竜 のこと (生活も) がどうしてわかるの

恐竜 の歯の化石からわかること

化石の中で多いものは、動物の骨や歯、貝殻などのように、長い間たってもくさりにくいものです。恐竜の歯はかたくてくさりにくいので、化石となってもよく残っています。恐竜の歯の形は、食べる物によってちがひ、歯の化石を見れば、その恐竜が何を食べていたかがわかります。歯がするどくとがったものならば、その恐竜は肉食であったことがわかります。また、先が平らか丸い歯ならば、その恐竜は植物の葉や実などを、すりつぶして食べていたことがわかります。歯の化石から、恐竜の頭の大きさや、その恐竜がどのような種類であるかを決めることができます。

恐竜 の骨の化石から 体の大きさがわかる

恐竜の骨の化石を見れば、その恐竜の体の大きさが、だいたいわかります。見つかった骨を組み立てると骨格がわかり、骨の凹凸を調べると、筋肉のつき方などもわかります。骨格や筋肉のつき方から、どのような姿をした恐竜なのか、4本足で歩いたのか、2本足で歩いたのか、どのぐらいの速さだったのかなど、いろいろなことが想像できます。中国やアメリカでは、恐竜の卵の化石や、生まれてまもない、赤ちゃんの化石も発見されています。巣の中で、温められていた状態のものまであり、恐竜がどのようにして卵をかえしていたかもわかります。

まわりの植物の化石

恐竜の化石といっしょに、木の葉、植物の種や花粉などの化石が、見つかることがあります。その化石をよく調べてみると、恐竜がくらしていた所が森林だったのか、草原だったのかなど、周りのようすがわかります。(監修・国司 真)

